

活動ノート



3月26日(日)

アカマツ林作業

9:30~15:30



◆参加者： 松雪、国広、藤木、林、新牛込(誠・寛・清・雅)、井上、森山、川上、織田、鎌田、永野(体験)、安田計15名

◆内容：前日の桜の開花宣言を受けてか、今日もポカポカとした晴天での始まりです。参加者も体験参加を含めて15名と久しぶりに大人数での作業となりました。今日の作業は、径25cm~30cm強のユズリハとタブノキの本格的な除伐、それと研修を兼ねての径20cm程度のクロガネモチの伐倒です。ユズリハとタブノキの除伐は、掛かり木を防ぐため木の重心とは違った方向への伐倒にせざるを得ませんでした。そのため、受け口の切り方やロープワーク等を慎重に行うとともに、予め高枝用ノコを使って掛かり木となりそうな隣接木の枝を落としたり、伐倒木の重心位置を変えるために側枝の枝落としをしました。結果としては、重心の関係で、通常の追い口切りやくさびだけではなかなか倒れてくれず、ユズリハはロープでの引き倒しが必要となりました。しかしながら、いずれも予定通りの方向に安全

に伐り倒すことができ、森会の技量も少しずつ上がってきているのを実感することができました。それにしても木が大きくて、手鋸での作業に体力を使い果たした伐倒となりました。また、伐倒研修を兼ねたクロガネモチ班は、受け口・追い口切りまでは順調に進みましたが、当初から危惧されていた隣接木枝への掛かり木が起き、なかなか倒れてくれません。しかし、こういった事態を想定してあらかじめ設置していたロープを使って引き倒すことができました。各班とも伐倒後は枝葉等の材処理を行いました。3時から小雨が降ってきたこともあって、予定の作業を終えた段階ですべての作業を終了しました。今日の作業では、各班とも安全手順を基本通りに遵守し、また予定していた方向にほぼ想定通りの伐倒することができました。その結果、C~D地区の斜面がさらに明るくなり、見通しや陽当たりも本当に良くなりました。今後も、B地区及びE地区方向斜面への除伐を進め、アカマツ群落の形を徐々に形作っていかれると思っています。

【ふりかえりより】

・事前の枝打ちで木の重心が安定し、予定の方向にドンピシャに倒れました。(織田)

・今日は樹の伐採をした。木の重心を意識した伐採について分かった。(新牛込清)

4月9日(日)

アカマツ林作業

9:30~15:30

◆参加者：松雪、静間、川上、林、鎌田、森山、妹尾、古寺(和・風)、千葉、永野(体験)、森山(体験)、計12名

◆内容：油山の桜も満開で、まさに花曇りという言葉がぴったりの日でした。今日の作業は、3月26日に引き続く形でのアカマツ林での除間伐。第1班は、B・C地区境界の双子のヤマハゼ伐倒から開始しましたが、午前中に1本伐った段階で、2本目が隣のネズモチやリョウブに引っかかりそうでした。そこで午後はこれらの除伐から始めました。直径15~20cm程度とそれほど太くは無かったのですが、本数が7~8本と多く結構しんどい作業となりました。それでも、若手の活躍でほぼ計画通りの伐倒ができました。第2班は、C・D地区境界付近の直径30cm強のタブノキにチャレンジしました。ただ、木の重心が谷側に偏っており、このままでは掛かり木になる可能性が高かったため、伐倒に取り掛かる前にまずは谷側に伸びていた大きな枝を、2mくらいの高さまで木登りして切り落としました。伐倒は、幹の形状がいびつだったため、受け口切りにやや手間



取り、ほぼ午前中一杯かかりましたが、追い口は大ノコの活用で案外簡単に切ることができました。ただ、重心が谷側に寄り気味だったため、くさびだけではなかなか倒れず、最終的にはロープで引き倒す結果となりました。第3班は、新人の伐倒研修も兼ね、D地区の遊歩道沿いに立っていた直径20cm弱のホオノキを伐ることとしました。ホオノキ自体は軟らかいのでノコ作業は比較的楽でしたが、受け口の角度が浅すぎたこともあって先端が掛かり木状態になってしまいました。ただ、軽度の掛かり木でしたので、最終的には追い口を大きくして予定通りの方向へ無事に伐り倒すことができました。第2・3班は、伐倒作業終了後C地区ヤードに運び込まれた大量の枝処理に取り掛かりましたが、何分にも3月26日作業の分も残っていたため、6~7人がかりでもすべての処理を終えることは出来ませんでした。それでも、最初よりはかなり見栄えの良いヤード状態にすることはできました。今日の伐倒作業では、各班とも基本通りの手順を遵守したこともあって、作業着手前に計画した通りの伐倒がほぼできました。また、ロープの活用がかなり重要なこと、また著しい偏心を軽減するための事前の枝払いがかなり効果的なことを実感しました。実際今日の作業では、試験的に直径15cm以上のタブノキの横枝を高枝切り用ノコで切ってみました、かなりしんどい作業ではあったのですが、ほぼ問題なく切落とすことができ、重心を目的の方向に無事変えることができました。今後、掛かり木しやすい谷側に偏心

した大径木の伐倒が続きそうですが、この枝払いを行うことでかなり状況を改善することができると思います。アカマツ林も少しずつではありますが、照葉樹林の景観から徐々にマツ林らしい姿になりつつあります。マツの幼木もかなり増え、また林床が明るくなったこともあって、下層の植生が賑やかになってきて、これまでとは違った森になりつつあるのではと思っています。今後もしんどい作業が続きそうですが、変化していく姿を楽しみながら森づくりを進めていきたいと思ひます。

【ふりかえりより】

・2回目の参加でしたが、前回に比べノコギリを使う回数が多かったので大変でしたが楽しかったです。少しずつでもノコギリの扱いに慣れたいと思ひました。(古寺 凧)

・ロープや滑車を使う仕組みを初めて知りました。とても面白かったです。いつか自分でロープの構造を考えて張るところまでできるようになりたいです。(千葉)

4月16日(日) カブトムシの森作業、 植生調査

9:30~15:45



◆参加者: 井上、森山、永野、林、松雪、静間、柴戸、吉田、中嶋、鎌田、榊 計11名

◆内容: 午前中から20度を越える初夏の雰囲気一杯の油山、オオ



ルリ、サシバといった夏鳥の声や林床のスミレ類、カキドオシ、ムラサキケマン、フデリンドウといった青色系の花やマムシグサが楽しめました。今日は、伐採と植生調査を行いました。伐採は、2班に分けて、アラカシの伐採とヤブツバキの伐採を行いました。アラカシは相接している幹との間に、追い口切りが出来るまで間隔を取らねばならず、通常よりかなり高い場所で伐ることになった上、足場の確保も難しいという大変な作業でした。周囲に大きな木がかなり立て込んでいるので、掛かり木にならないような伐倒方向の選定に細心の注意が必要でした。更に、伐倒時に近くのクヌギへのダメージを極力少なくするよう予め横枝を高枝ノコギリで切り落としました。このあとロープがけをして、やっと受け口切りに取り掛かったので受け口が出来たのは昼食後になり、伐倒は14時過ぎでした。アラカシが遊歩道の上に見事に横たわったので、来園者の邪魔にならないよう、早速全員で材処理をして引き揚げました。ヤブツバキの方は、伐り易そうな形だったものの、生えている場所が急斜面で、足場の確保が難しいという悪条件下での作業になりました。そのせいか、受け口が大きくなってしまい、木の自重で受け口切りのノコギリが入らなくなってしまいました。そこで急遽ロープをかけて引き起こした上で作業を再開、無事昼

食前までに伐倒できました。いつものことながらヤブツバキは伐った後の材処理が大変、大量の枝葉を細かくしてヤードに収容し、その後アラカシ班に合流しました。一方、植生調査班は、汗ばむほどの陽気の中、恒例の調査を実施しました。調査区は5m×5mの4区画です。調査対象は花や蕾、実がある草本植物。キクムグラ、マムシグサ、ナガバタチツボスミレ、スゲの一種、ムラサキケマン、カキドオシ、ヤブニンジン、ツボスミレ、ハコベ、ノアザミ、ヤエムグラ、オオバウマノスズクサ、タネツケバナ、クサイチゴ、ヤブヘビイチゴ、ミミナグサの一種などが見られました。なお、夏に開花するツルニンジンを周囲に3本ほど見つけたので刈り残すよう、支柱を立てました。

【ふりかえりより】

・今日は気温が高いということで覚悟していましたが、山の中は自然の日陰や涼しい水の音があり、気分良く作業出来ました。(永野)
・カブ森の小さな花々をめでながら春を満喫しました。(鎌田)

5月7日(日)

アカマツ林作業

9:30~16:00



◆参加者：松雪、国広、井上、森山、川上、林、鎌田、新地、藤木、毛利、堀内(尋・翔)、榎、中嶋 計14名

◆内容：今日はゴールデンウィークの最終日。どれだけの人が集ま

ってくれるのかちょっと不安でしたが、天気が良かったこともあって14名の会員が参加してくれました。柏陵高校生物部の新人2名も初参加です。今日の作業は、2班に分かれてのシダ刈り・萌芽枝除去、及び広葉樹の除伐が中心でしたが、その他に3月に行った幼木調査の補足として、対象幼木の詳しい立地環境を調べるための調査を並行して行いました。伐倒班は、B・C地区境界付近に立っている直径25cm前後のソヨゴが対象です。伐倒作業は、経験の多い5名のメンバーで、まずはロープを掛けやすくするための高枝ノコによる枝打ちから始め、基本通りの手順で午前中に受け口切り、そして午後から追い口切りを行いました。ところが、最後の段階で重心が伐倒方向とずれていたこともあって、追い口を深く切っても、くさびをいくら打ち込んでもどうしても倒れてくれません。最後は7~8人掛かりで引き倒す結果となりました。伐倒後にツルを確認すると、追い口の芯部が切り残っているのがわかり、これも倒れにくかった原因の一つと思われました。やはり、受け口だけでなく、追い口も教科書通りに切るべきことを実感した次第です。もう一方のシダ刈り班は、A・C地区の急斜面に繁茂しつつあるシダや萌芽枝の除去作業です。今の時期はシダも若くて背も低く比較的刈りやすいのですが、何分にも足場の悪い急斜面での作業で結構つらい作業となりました。最初は鎌と刈込バサミ双方を使って刈っていたのですが、やはり刈込バサミの方が作業がしやすかったので、途中からはすべて刈込バサミに

切り替えました。それでも、A・C全地区をきれいに刈り終えることは出来ず、2~3割程度が残る結果となりました。しかし、これで秋の草刈り作業はかなり楽になったと思います。なお、このシダ刈り作業に先行して、アサギマダラが大好きなヒヨドリバナを刈られないようマーキングしました。秋にはきっとアサギマダラがここで羽を休めてくれることと思います。これらの作業と併行して、調査班は、世話役を中心に生物部部員4~5名が交替しながら、幼木の立地状況についての基礎調査を行いました。アカマツの幼木調査は3月に対象木の選定及び番号付け、樹高計測がされていましたが、地形状況・斜面の向き・傾斜・周辺の幼木密度・地表面の状況など今後の成長度の違い等を分析するための基礎データがわかっていなかったもので、急遽これらのデータを集めることとしました。来年からは、主として樹高や樹冠幅の計測が行われることとなりますが、その調査結果、例えば「どうしてこのエリア、あるいはこの木の生長は早いのか」などの分析ができるのではと期待しています。困みにこの幼木調査は、柏陵高校生物部の皆さんの積極的な協力をお願いしたいと思っていますので、どうぞ宜しくお願いします。この日の作業は、伐倒班の枝処理や幼木調査が少し長引いたため定刻より30



分ほど延びてしまいましたが、この間に今日が初体験である生物部2名の新入会員に、直径20cm前後のホソバタブの伐倒を体験してもらいました。やはりノコの扱いには結構苦労していましたが、無事に予定通りの伐倒を終えることができました。今後の貴重な戦力になることを期待しています。

【ふりかえりより】

・今回久しぶりに参加し、大ノコや切りにくい木を担当しました。無事に倒れましたが、真ん中が切れていなかったということなので、次回は気を付けようと思います。(毛利)

・幼木調査では細かいところまで計測するのが大変でした。生物部だけで調査できるように頑張りたいです。(藤木)

5月28日(日)

カブトムシの森作業

9:30~15:30

◆参加者: 静間、松雪、織田、林、川上、鎌田、古寺(仁・和・凧)、妹尾、長澤、榊、体験4名 計16名



◆内容: 今日の作業はカブ森において、梅雨を控えて繁茂してきた下層植生の草刈り、イタドリ、ササ、萌芽枝の除去、遊歩道周辺の整備です。初めに3班に分れて、①グループはC地区斜面を北側から、②グループはC地区東側平坦地を東屋側から、③グループはB地区川沿い及び遊歩道周囲

で作業を始めました。懸念していたハチ類による被害はありませんでした。また、クヌギ幼木、ホウチャクソウを誤って切らないように、これらの生息地を避けて作業範囲を指定したので、ほぼ保護できたものと思います。午前中に①、③グループは完了したので、午後から①グループはクヌギ林、西側遊歩道、③グループは休憩所北側で作業。その間にヒメヒオウギズイセンの除去作業も行いました。ヒメヒオウギズイセンは、なかなか完全除去は難しいものの、確実に減少しています。②グループは午後の前半でC地区での作業が終了したので、①グループに合流、一部はB地区斜面の萌芽枝除去も行いました。湿度は低かったものの、気温が高かったのと、かなりの重労働(?)で疲れが目立ったので少し早めに切り上げて15時過ぎには道具整備を終えました。

【ふりかえりより】

・今日はA地区を散策していたところ、へびを6匹見つけ、びっくりしました。作業としては、4月と較べ草がボーボーで、刈りがいがありました。(妹尾)

・今日は初めて参加させていただき、充実した一日となりました。時には自然の中で過ごして、リフレッシュしていきたいです。(古寺仁)

6月18日(日)

安全講習会

9:30~16:30

◆参加者: 鎌田、榊、林、橋本、川上、永野、林、井上、森山、藤木、堀内(翔、尋)、国広、静間、古寺、吉永、今林、富永、菅原、小川 計20名

◆内容: 今日は、カブ森、アカマ



ツルの5か年計画の説明の後、山村塾の小森さんを講師に迎え安全講習会を開きました。安全な伐木作業とは「作業者が対象木を作業開始から終了まで十分なコントロール下に置くこと」という説明があり、その後、受け口は1/4を基本とし、小さな木は1/5、大きな木は1/3、追い口は直径の15~20%の高さ、ツルは1/10残すなど、木の種類や大きさに応じた割合など具体的かつ理論的に説明していただきました。その後、センター前で引き結び、巻き込み結びなどのロープワークをみんなでを行い、午後からはカブ森でヤブツバキとスギの伐倒について滑車とロープを使い、実習形式で指導していただきました。今日学んだことを生かし、今後、より安全な作業をやっていきたいと思いました。

【ふりかえりより】

・伐倒の時に気をつけることや伐倒のしかたを改めて学べてよかったです。(森山)

・切り口の作り方からロープかけなどを基本から学べて良かったです。(藤木)

